

平成30年度
学校関係者評価報告書

学校法人 江楠学園 佐賀工業専門学校

1. 学校関係者評価の目的

学校法人江楠学園佐賀工業専門学校における学校関係者評価は平成19年に学校教育法及び学校教育法施行規則の改正により、自己評価、学校関係者評価の実施・公表、評価結果の設置者への報告に関する規程が新たに設けられたことを受け「専修学校における学校評価ガイドライン」に沿って以下のことを目的として実施する。

- ① 自己点検評価の評価結果について、学校外の関係者による評価を行い、自己点検評価結果の客観性・透明性と併せて信頼度を高める。
- ② 学生・卒業生、関係業界、中学校・高等学校、保護者・地域住民、所轄官庁・自治体の関係部局など、専修学校と密接に関係する方々からの理解促進や連携協力による学校運営の改善を図る。

2. 学校関係者評価委員の構成

学校評価委員は、以下の人員で構成する。

- ・ 関連業界等関係者 4名
- ・ 教育に関し知見を有する者 1名
- ・ 卒業生 1名

3. 学校関係者評価の実施方法

令和元年5月15日（水）

佐賀工業専門学校 多目的室

参加者 委員5名 事務局6名

学校関係者評価委員の皆さまには、事前に郵送等で配布した報告書並びに本校のホームページ上で公開されている学校情報等で事前に理解を深めていただいたうえで、平成30年度自己評価の結果をもとに、意見交換を通して得られた意見を取りまとめた。

4. 学校関係者評価委員からの意見並びに特記事項

(1) 教育理念・目標

特記事項：

- ・ 自動車学科においては、自動車業界の電気・電子化への変化に対応するため関係業界団体との連携を図り最新実務の修得が必要となる。この際、職業実践専門課程の特色である企業との連携による効果を期待し推進する。
- ・ エアポートサービス学科においては、座学と実習の充実に努めていく。(九州内においては唯一校内実習ができる特色を生かし即戦力を育成する。)併せて企業の採用試験時期が早まっていることから試験対策にも柔軟に対応していく。
- ・ 育成人材像については、企業から求められる人材像などに注視しつつ人材育成の目標を定めていかなければならない。
- ・ 学校理念等の周知については、継続してあらゆる機会を利用し保護者並びに学生にも周知していくことが求められる。また、その理解度の把握にも努める。

委員からの意見：

- ・ 人材育成で企業人としては「見抜く力・考え抜く力・やり抜く力」を持った人材が求められる。

(学校からの説明：人材育成の中でも必須のコミュニケーション能力の向上対策として、外部講師によるセミナー（実習型）を複数回取り入れることで幅広い人間力の向上に役立てていく。)

- ・ 理念等の周知の把握について

(学校からの説明：卒業時に保護者対象に学校評価アンケートを実施している。その中で回答者の約9割の方は周知していただいておりますが更なる周知を図りたい。)

- ・ 国際化に向けた人材づくりの対策としての実用英語（英検）の取組みについて

(学校からの説明：英検3級を保有している学生はさらに上級を目指し、その他は3級取得のため佐賀大学より講師を招いて力を入れている。昨年度は3級受験者も複数合格し、その効果は表れている。本年は準2級を保有している学生が入学しているため2級合格を目指したい。)

(2) 学校運営

特記事項：

- ・ ホームページのリニューアルにより、アクセス数も増加しており情報公開も効果的になされていると思われる。今後も教育活動等の適切な情報公開に努める。

委員からの意見：

- ・ ホームページの閲覧はスマートフォン対応となっているか

(学校からの説明：リニューアルに合わせて対応可能に更新した。)

(3) 教育活動

特記事項：

- ・ 電気自動車へのシフト・自動運転技術レベルアップなどの環境の中にあって整備士養成機関の本校では、国家試験に向けた対策は従来どおり継続しつつ、新たな技術に対する知識等の修得に向けた各種研修会等へ教員を積極的に参加させることにより学生に対する教育の質を向上させる。

委員からの意見：特になし

(4) 学習成果

特記事項：

- ・ 残念ながら退学者（理由：就学意欲の低下、進路変更）が出ており減少策としては、学生の身上把握に努めることを最優先とし、引き続き緊密な保護者との連携を重視し取り組むほかはないと思われる。
- ・ 卒業後の活躍等の把握については、会社訪問時に確認し情報を共有する。

委員からの意見：

- ・ 入学してからのモチベーションの保ち方について

(学校からの説明：それぞれ現場を知り尽くした教職員の生の経験等を伝えながらモチベーションを持続させるよう指導していく。)

(5) 学生支援

特記事項：

- ・ 学生相談担当者だけでなく教職員全員が学生の目線に立って気軽に相談できる雰囲気(高い信頼・強い絆)の醸成に努めていく。
- ・ 保護者との連携については、クラス担任・事務からの連絡等を適切に執り行っていくことが重要。また適時に保護者会などを開催していく。

委員からの意見：

- ・ 課外活動の支援とはどのようなものか?

(学校からの説明：主に九州ブロック専門学校体育大会参加に伴う経費の補助を行っている。)

(6) 教育環境

特記事項：

- ・ 防災に対する体制整備の中で地震対策(訓練・教育)を取り入れて基礎知識を高める計画も必要と思われる。

委員からの意見：特になし

(7) 学生募集

特記事項：

- ・ 募集課題の克服として全職員対象の募集広報をテーマとした研修会を開催。これまでの考え方を見直すことができた。この研修会を好機と捉え30年度の募集状況に満足することなく攻めの募集に力を入れていくことが必要である。
- ・ 卒業生並びに保護者等から学校評価を発信していただける環境が募集には効果がる。

委員からの意見：

- ・ 保護者からのアンケートの自由意見をホームページにアップできないか

(学校からの説明：無記名とは言え個人情報観点から、事前了承などの要件をクリアし次年度に検討したい。)

(8) 財務

特記事項：

- ・ 監査・財務は適切
- ・ 財務基盤を盤石にするため学生定員の充足率の向上を図る。

委員からの意見：特になし

(9) 法令等の順守

特記事項：

- ・ 法令・設置基準並びに自己評価の公開等は、適切に実施され遵守されている。

委員からの意見：特になし

5. 学校関係者評価総括

本日の委員会で、皆様方より賜りました貴重なご意見を今後のより良い学校づくりに活かし、自己点検評価が真に役立つものとなるよう職員一同、引き続き努めてまいります。